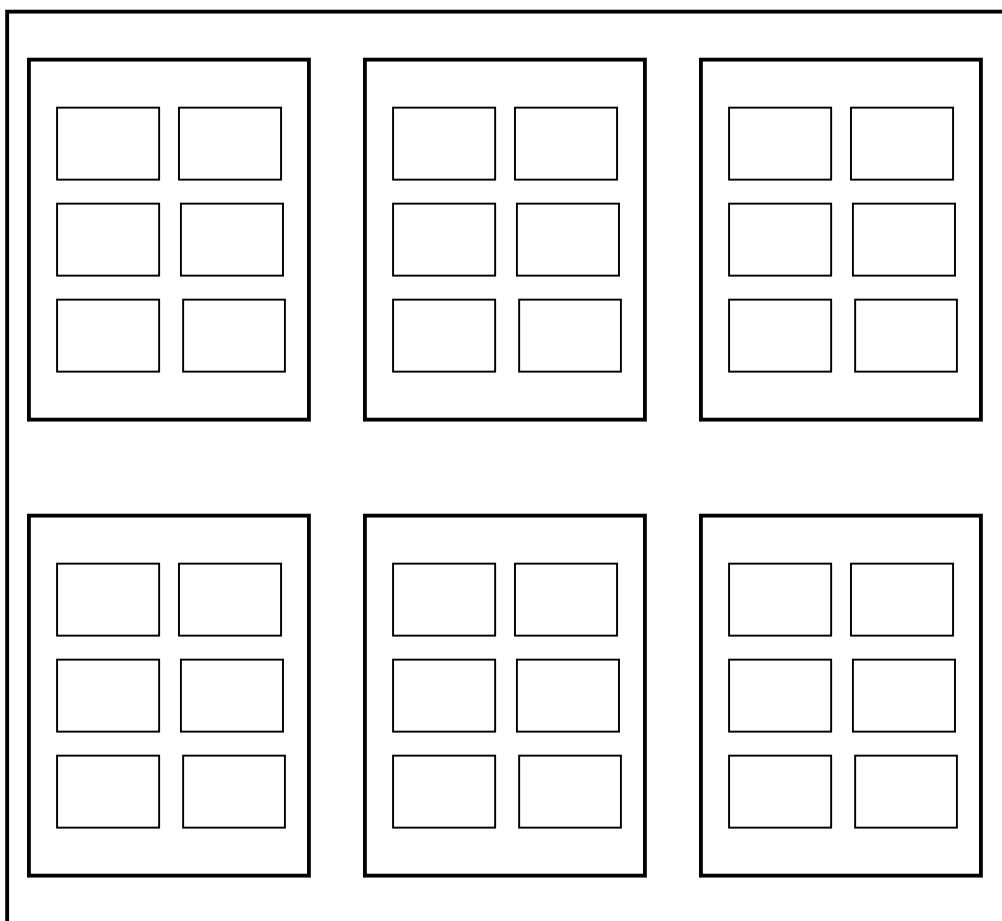


GTB

QuickViewer ユーザーズマニュアル



目次

第一章 お使いになる前に

1 . 動作環境とインストール	7
1 - 1 . 推奨動作環境	7
1 - 2 . QuickViewer のインストール手順	8
2 . QuickViewer の概要	12
2 - 1 . QuickViewer について	12
2 - 2 . 複数版（色成分）の同時編集について	13
2 - 3 . QuickViewer で取り扱うファイル	14
2 - 4 . 画像ファイルの名称規則	15
3 . サンプルアプリケーション	17
3 . Windows 基本操作	18
3 - 1 . マウスの操作	18
3 - 2 . ウィンドウ操作	20
3 - 3 . リスト操作	23
3 - 4 . メニュー操作	24

第二章 基本画面とメニュー

1 . 基本画面構成	29
2 . メニュー構成	30
3 . ツールパレット	33
4 . 色版パレット	33

5 . ステータスバー	34
-------------------	----

第三章 操作説明

1 . QuickViewer の起動と終了	37
1 - 1 . QuickViewer の起動	37
1 - 2 . 色版の設定	38
1 - 3 . オプションの設定	42
1 - 4 . QuickViewer の終了	43
2 . ファイル操作	44
2 - 1 . ファイルを開く	44
2 - 2 . 複数版ファイルを開く	44
2 - 3 . ファイルを閉じる	45
3 . ズーム操作	46
4 . ツールバー操作	47

第一章

お使いになる前に

動作環境とインストール

ImageViewerPC 概要

Windows の基本操作

1. 動作環境とインストール

1 - 1. 推奨動作環境

入力フォーマット :

TIFF : 1Bit、8Bit グレyscale、CMYK コンボジット

コンピュータ本体 :

Pentium 600Mhz以上

メモリ :

256MB 以上

ハードディスク :

20GB 以上

OS :

Windows NT サービスパック 5 以上

Windows2000

1 - 2 . QuickViewer のインストール手順

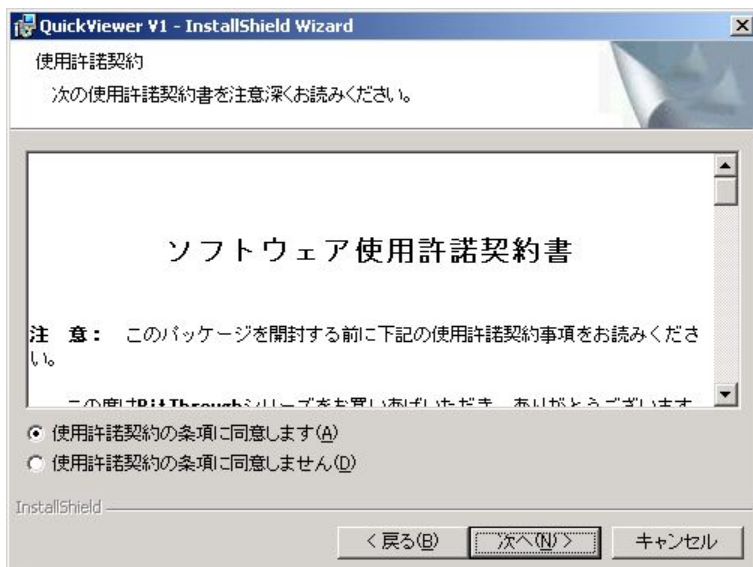
(注意) QuickViewer は、起動前にハードウェアキーが接続されている必要がありますので注意して下さい。接続されていない場合は、機能を確認する為のサンプルアプリケーションとなります。



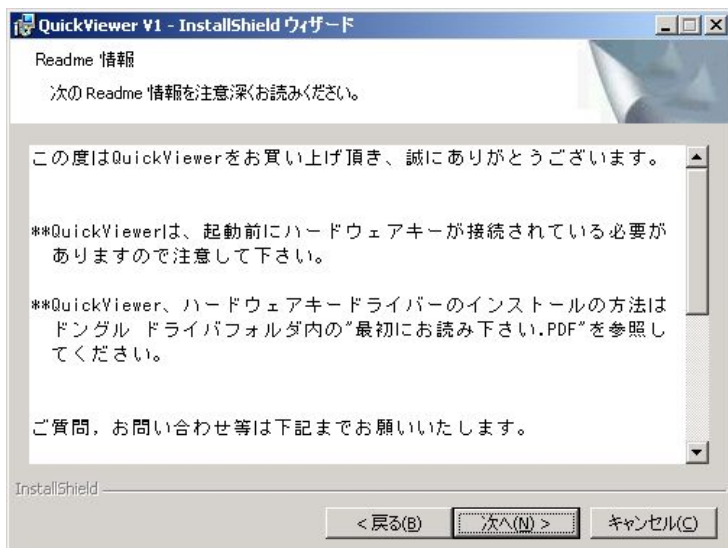
1) C D - R O M内にある「SETUP.EXE」をダブルクリックします。



2) インストールを行う製品のセットアップウィザードが起動しますので「次へ(N)」をクリックします。



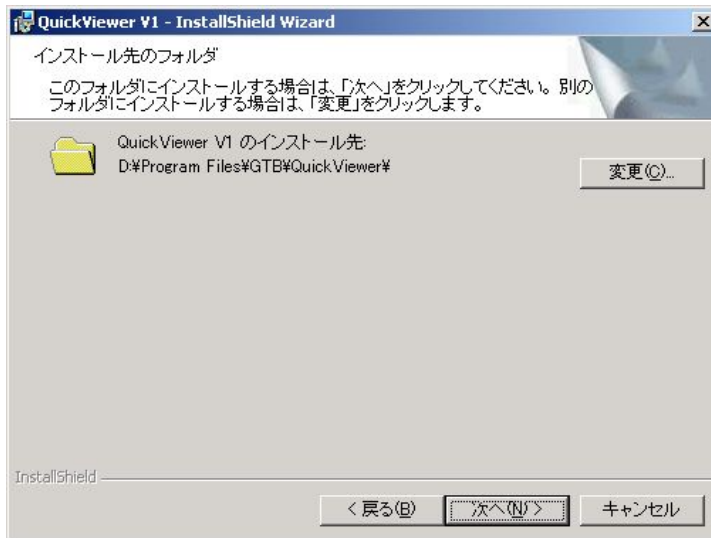
3) 製品の使用許諾が表示されますのでよくお読みください。同意いただいた場合、本製品のインストールが可能となりますので「次へ(N)」をクリックします。



4) インストールにあたっての注意事項と製造元の情報が表示されます、よくお読みの上「次へ(N)」をクリックします。



5) 名前と所属会社名を入力し、「次へ(N)」をクリックします。



6) インストール先のフォルダを指定します。

変更する場合は「変更(C)...」をクリックして、パスを直接入力するか、ディレクトリを指定します。「次へ(N)」をクリックするとアプリケーションのインストールを開始します。

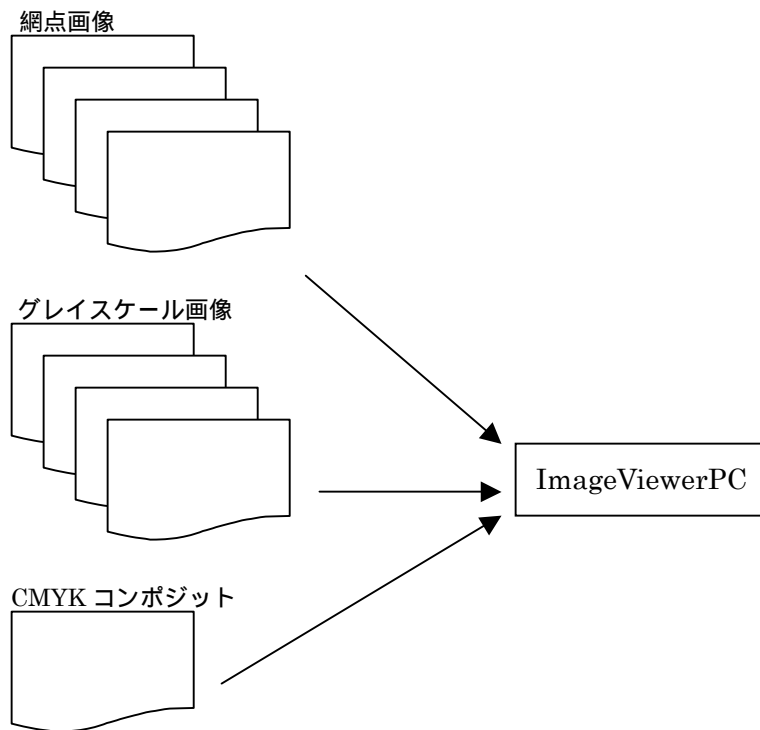
2 . QuickViewer の概要

2 - 1 . QuickViewer について

QuickViewer は PlateCompare の為のトンボ位置の指定をする為のアプリケーションで、網点画像 (1 ビット TIFF)、グレースケール画像 (8 ビット TIFF)、CMYK コンポジット (3 2 ビット TIFF) を 1 版、又は複数版を読み込み表示します。

PlateCompare では網点画像とスキャン画像 (グレースケール画像) を比較し、相違画像を生成します。両画像上の比較すべき領域を精確に対応付ける為に、両画像にあるセンタートンボを自動的に検出する必要がありますが、予めトンボのおおよその位置を指示する必要があります。

QuickViewer では大サイズ (x,y のいずれか、または両方が 3 0 0 0 0 画素を超える) の網点画像、スキャン画像ともに表示でき、センタートンボの位置を確認できます。



2 - 3 . QuickViewer で取り扱うファイル

QuickViewer で取り扱うファイルについて説明します。

網点ファイル (.tif)

RIP で出力された網点データファイルで、各色成分ごとのファイルが存在します。QuickViewer では色版別にファイル処理、または同じ原稿名の各色成分のファイルをひとつのファイルとして取り扱うことができます。

グレースケール画像 (.tif)

スキャナで読み込んだり、網点からデスクリーニングしたグレースケール画像で、各色成分ごとのファイルが存在します。

QuickViewer では色版別にファイル処理、または同じ原稿名の各色成分のファイルをひとつのファイルとして取り扱うことができます。

CMYK コンポジット画像 (.tif)

C, M, Y, K の 4 成分でできたフルカラー画像です。

2 - 4 . 画像ファイルの名称規則

QuickViewer では、色版と画像ファイルの対応（どの色版がどのファイルなのか）を画像ファイルの名称の一部を参照してとります。

例えば、CMYK で構成された “ Page.ps ” という PS ファイルを RIP に通すと、Cyan 版は “ 1PageC00.TIF ” 、Magenta 版は “ 1PageM00.TIF ” 、Yellow 版は “ 1PageY00.TIF ” 、Black 版は “ 1PageK00.TIF ” の 4 つの網点ファイルが出力されます。

QuickViewer では、グレイスケール画像でも同様な参照名が付加されているのを前提として、これら画像ファイルの名称から参照名を除いた時の名称が一致する網点ファイル群を 1 つの原稿として判断しています。

（ 1 ）画像ファイル名称の解説

- ・ 網点画像

例えば “ 1PageC00.TIF ” の内訳は以下の様になっています。

（ RIP の種類や設定によって異なります ）

“ 1 ”	- RIP で付加されるページ番号
“ Page ”	- RIP 前のファイルのドキュメント名（ベース名）
“ C ”	- RIP で付加される色版を判別する為の参照名 （ RIP の設定や色版によって異なります ）
“ 00 ”	- RIP で付加される履歴番号（ 2 桁 ）
“ .TIF ”	- ファイルの拡張子（ファイルのタイプを表します）

- ・ グレイスケール画像

網点画像と同様です。

- ・ CMYK コンポジット画像

特に決まった名称はありません。

（ 2 ）QuickViewer で原稿の判断ができる画像ファイルの名称規則

- ・ 網点画像

ページ番号はなくてもかまいません

ベース名は1文字以上

色版の参照名は1文字以上で、履歴番号か拡張子の前に必要

履歴番号は2文字以内で拡張子の前に必要

ファイルの拡張子は“.TIF”で名称の最後に必要

- ・ グレイスケール画像

網点画像と同様です。

- ・ CMYKコンポジット画像

ファイルの拡張子は“.TIF”で名称の最後に必要

3. サンプルアプリケーション

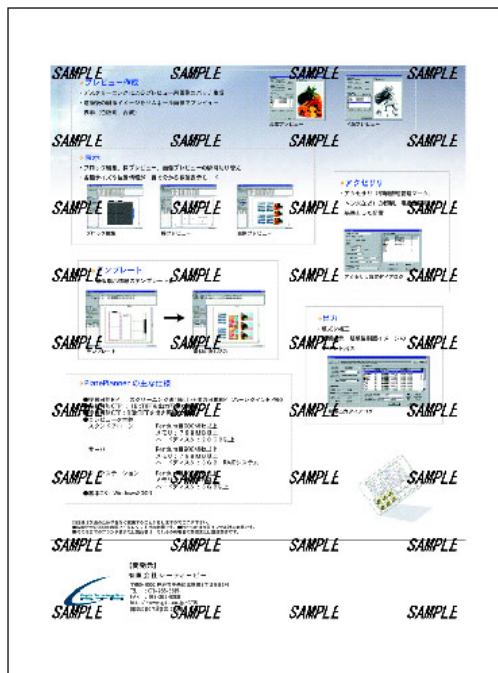
ハードウェアキー（コピーガード）を接続しないで動作させた場合、有効期限内でだけサンプルアプリケーションとして動作します。

サンプルアプリケーションでは、ImageViewerの全機能が使用できますが、画像を呼び出す場合に画像内に“SAMPLE”の文字が埋め込まれると共に画像の周辺部（縦横それぞれの長さの1/12）の画像が消え白くなります。呼び出した画像そのものには影響はありません。また、本来の処理よりも多くの時間を要します。（“Creating Sample Images”のメッセージがプログレッシブバーに表示されている時間が加算されます。）

本来の画像



サンプルアプリケーション時の画像



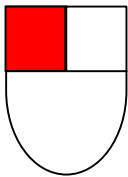
4 .Windows 基本操作

4 - 1 . マウスの操作

マウスはコンピュータに指示を与えるための装置です。マウスには右ボタンと左ボタンがあります。マウスの操作には、クリック（左クリックともいいます）、右クリック、ダブルクリック、ドラッグの4種類があります。

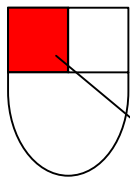
『クリック』

マウスのボタンを1回押してすぐに離すことを、「クリック」といいます。クリックはメニューやボタンを選んだりするときに使います。



『ダブルクリック』

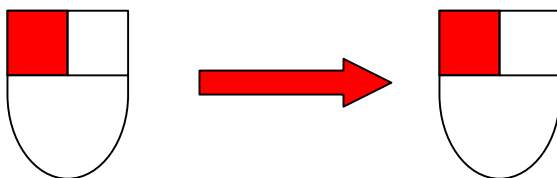
左ボタンをすばやく2回押すことを「ダブルクリック」といいます。ダブルクリックはアプリケーションソフトを起動するときなどに使います。



2回、カチカチと素早くクリック

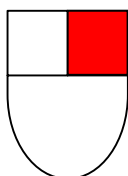
『ドラッグ』

マウスの左ボタンを押したままマウスを動かすことを「ドラッグ」といいます。また、目的の場所までマウスをドラッグした後、マウスのボタンを離すことを「ドロップ」といいます。ドラッグはアイコンやウィンドウの移動や、操作の範囲の選択などに使います。



『右クリック』

マウスの右ボタンを1回押すことを「右クリック」といいます。右クリックは主にメニューを表示させます。

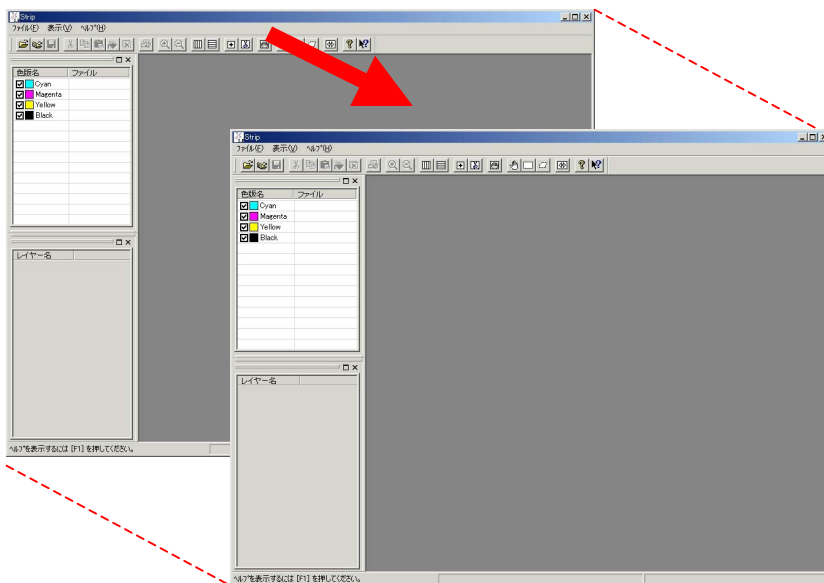


4 - 2 . ウィンドウ操作

ウィンドウは作業を行なう仕事場のようなものです。アプリケーションを起動させるとそのアプリケーションのウィンドウが開かれ、作業ができるようになります。ウィンドウは同時にいくつも開くことができるので、複数の作業を同時進行で行なうことができます。

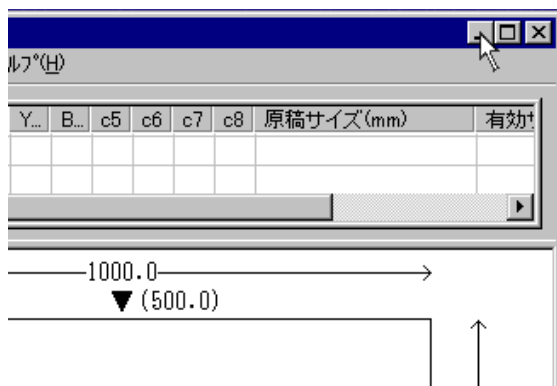
『ウィンドウを移動する』

ウィンドウを移動するときには、そのウィンドウのタイトルバーをドラッグします。移動させたい位置まできたら、マウスのボタンを離します。ウィンドウを移動させても、ウィンドウの大きさは変わりません。



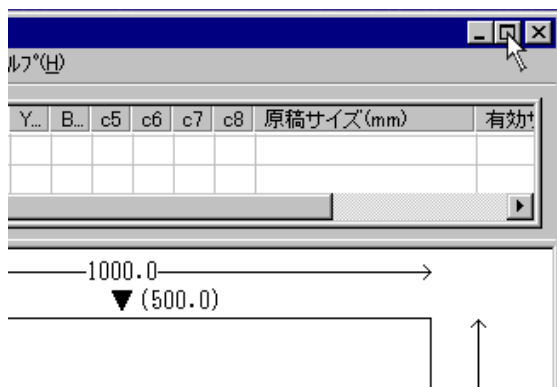
『ウィンドウを最小化する』

タイトルバーの右端にある3つの小さなボタンのうち、左端のボタンをクリックします。すると、ウィンドウはタスクバーに格納され見えなくなります。タスクバーに格納されたウィンドウのボタンをクリックするとふたたび現れます。



『ウィンドウのサイズを変更する』

タイトルバーの右端にある3つの小さなボタンのうち、真ん中のボタンをクリックすると、ウィンドウは画面いっぱいに表示されます。もう一度クリックすると元の大きさに戻ります。またすでに画面いっぱいに表示されている場合、このボタンは元のサイズに戻すボタンになります。



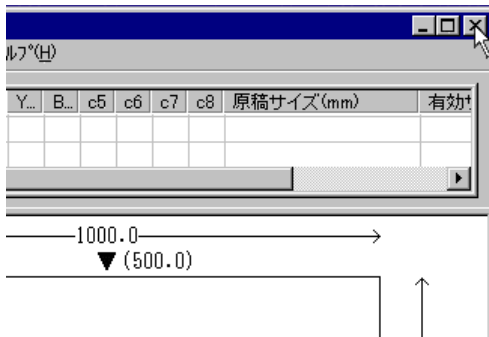
『ウィンドウを好きな大きさに変更する』

ウィンドウの枠の部分にマウスのポインタをあわせると、マウスポインタの形が変化します。この時にマウスをドラッグすると、ウィンドウの大きさが変わります。好きな大きさになったところで、マウスのボタンを離してください。



『アプリケーションソフトを終了する』

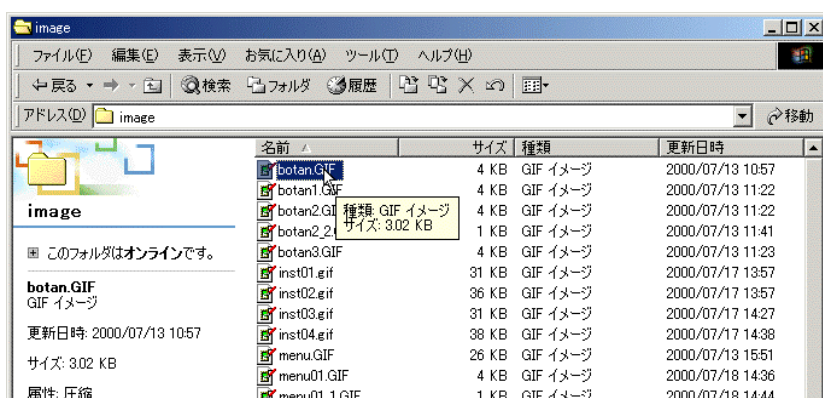
タイトルバーの右端に配置されてるボタンの右側のボタンをクリックします。ウィンドウは消え、アプリケーションは終了したことになります。



4 - 3 . リスト操作

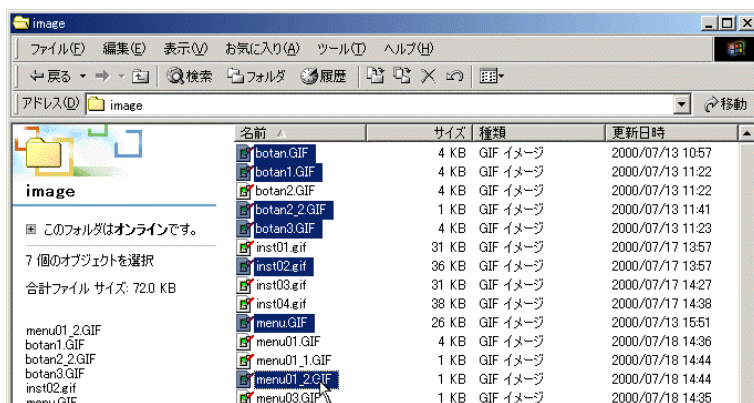
『リストの選択』

リストの一覧のウィンドウで選択したいファイルまたは項目にカーソルを合わせてクリックします。選択した項目の色が変われば、その項目を選択したことになります。



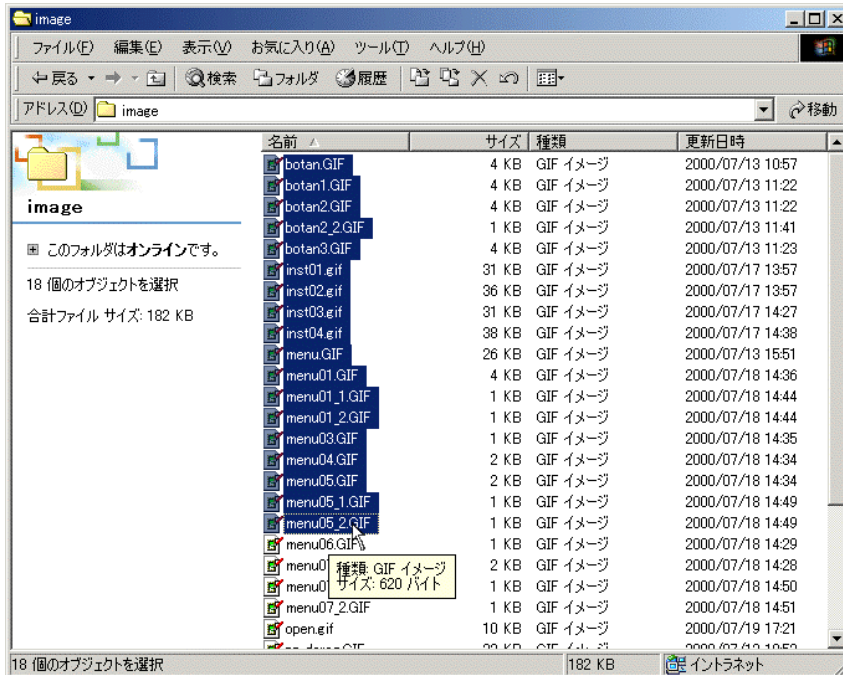
『リストの複数選択』

キーボードの Ctrl キーを押しながらリストを選択すると、複数のファイルまたは項目を選択することができます。



『リストの一括選択』

Shift キーを押しながら、ファイルまたは項目を選択すると、最初に選択されたファイルから、今、選択されたファイルまで一括で選択できます。最初に選択を行っていないときは、リストの最初からの選択になります。



『すべてのリストを選択』

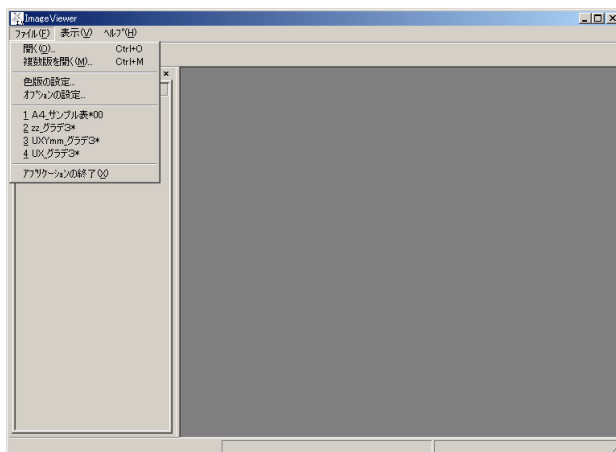
メニューバーの「編集」-「すべてを選択」を選択するとすべての項目を選択することができます。Ctrl キーと「A」を同時に押しても同等の効果が得られます。

4 - 4 . メニュー操作

タイトルバーの下の「ファイル」、「編集」などの項目一覧を「メニュー」と呼びます。右クリックなどでもメニューの選択は可能です。メニューバーには選択できうる全てのメニューがあります。

『メニューの選択』

行ないたい作業の項目をクリックすると、その項目のさらに細かな作業のメニューが降りてきます。降りてきたメニューの作業項目をクリックするだけです。



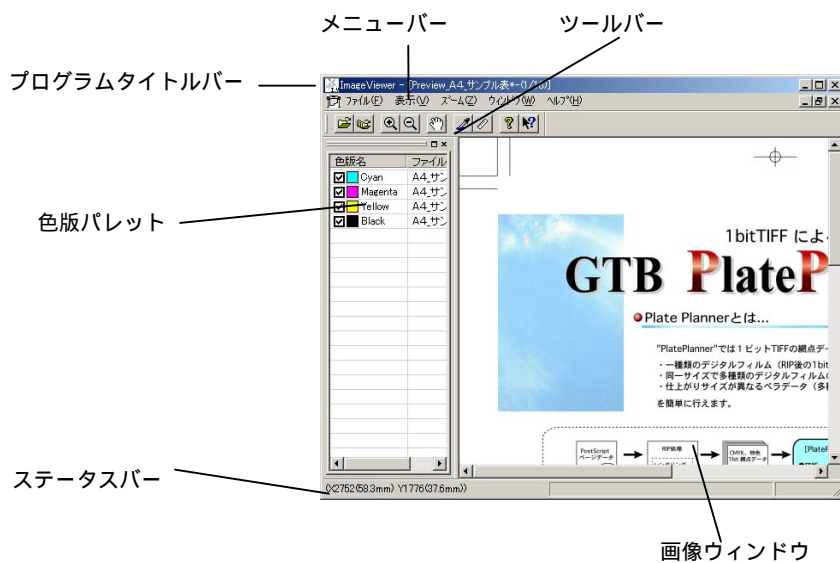
第二章

基本画面とメニュー

基本画面構成

メニュー項目

1. 基本画面構成



『プログラムタイトルバー』

ウィンドウやダイアログボックスの名前が表示されるバー

『メニューバー』

メニュー名が表示されるバー

『ツールバー』

ツールが表示されているバー

『色版パレット』

版の色設定を表示するパレット

『ステータスバー』

QuickViewer に関する情報またはカーソル座標位置表示されるバー

2. メニュー構成

ファイル

開く(O)...	Ctrl+O
複数版を開く(M)...	Ctrl+M
閉じる(C)	
プロパティ...	
色版の設定...	
オプションの設定...	
1 A4_サンプル表*00	
2 zz_グラデ3*	
3 UXYmm_グラデ3*	
4 UX_グラデ3*	
アプリケーションの終了(X)	

『開く』

単版の画像ファイルを開き、新しいウィンドウに表示します

『複数版を開く』

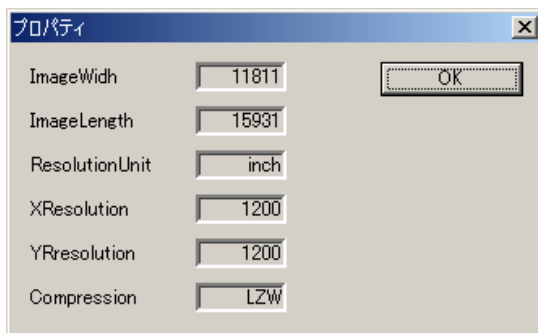
複数版のファイルを開き合成して、新しいウィンドウに表示します

『閉じる』

表示中のファイルを閉じます

『プロパティ』

表示画像のプロパティを表示します。



- ImageWidth 画像の画素数 (x 方向)
- ImageLength 画像の画素数 (y 方向)
- ResolutionUnit 解像度の単位
- Xresolution 解像度 (x 方向)
- Yresolution 解像度 (y 方向)
- Compression 画像圧縮方式

『色版の設定』

使用する色版を指定します。

特色を使用する場合はここで設定します

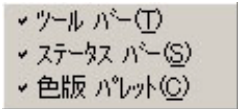
『オプションの設定』

システムの各種設定を行います

『アプリケーションの終了』

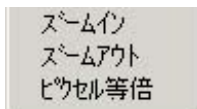
アプリケーションを終了します

表示



ツールバー、ステータスバー、色版パレットの表示 / 非表示を指定します。

ズーム



『ズームイン』

ウィンドウの中心から表示を拡大します

『ズームアウト』

ウィンドウの中心へ表示を縮小します

『ピクセル等倍』

ウィンドウの中心から等倍表示します

3 . ツールパレット



開く (単版)



複数版を開く



ズームイン・ズームアウト



測色



測長

4 . 色版パレット



チェックマークの ON/OFF で
表示・非表示を切り替えます。

5 . ステータスバー

カーソルの位置に合わせた情報が表示されます。

プログラムの情報、バージョンそして著作権を表示

カーソルが画像上にある場合は位置情報が表示されます。

(X1024(21.7mm) Y12096(256.0mm))

第三章

操作説明

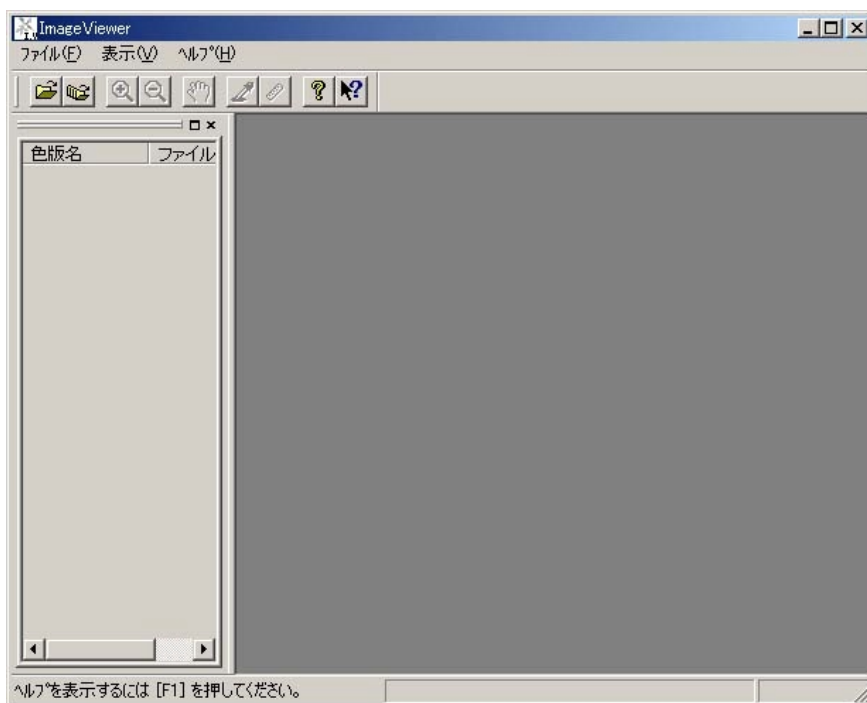
QuickViewer のオペレーション

1 . QuickViewer の起動と終了

QuickViewer の起動方法と終了方法について説明します。

1 - 1 . QuickViewer の起動

スタートメニューから「QuickViewer.exe」のアイコンをダブルクリックすると QuickViewer が起動し、基本画面が表示されます



1 - 2 . 色版の設定

この設定は網点画像、グレースケール画像に有効です。また、以下で述べる色版毎の要素の値(0 ~ 2 5 5) は網点画像にのみ有効です。

1) ファイルメニューの “ 色版の設定 ” を選択します



・色版の設定 ボタン

「使用色版」リストで選択している色版を設定します。

「色版の設定」ダイアログを表示します。

・色版の追加 ボタン

新しい色版を設定します。「色版の設定」ダイアログを表示します。

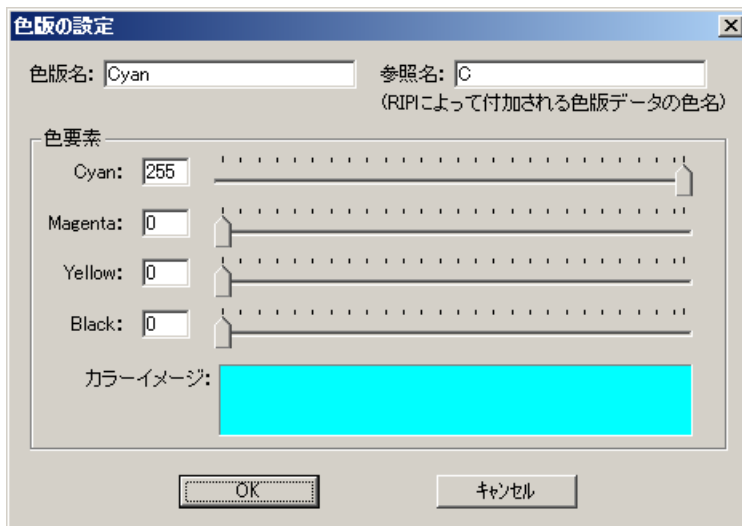
・色版の削除 ボタン

「使用色版」リストで選択している色版を削除します。

色版の設定を変更、追加する

1) 変更したい「色版」をリストから選択して「色版の設定」を押して「色版の設定」ダイアログを表示します。

2) 「色版の追加」を押して「色版の設定」ダイアログを表示します。



・色版名

色版名を表示します。変更する場合は新たな名称を入力します。

この名称はユーザー自身が色版を識別するための名称で、色版パレットの項目表示に使用します。

・参照名

色版の参照名を表示します。変更する場合は新たな名称を入力します。

複数版を開く時に、データファイルと色版の対応を識別するために使用します。

・Cyan

カラー表示用のCyan要素の値(0~255)を表示します。

変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

・Magenta

カラー表示用の Magenta 要素の値 (0 ~ 2 5 5) を表示します。
変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

・ Yellow

カラー表示用の Yellow 要素の値 (0 ~ 2 5 5) を表示します。
変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

・ Black

カラー表示用の Black 要素の値 (0 ~ 2 5 5) を表示します。
変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

・ カラーイメージ

「Cyan」、「Magenta」、「Yellow」、「Black」で設定している値からカラーのイメージをリアルタイムに表示します。

・ OK ボタン

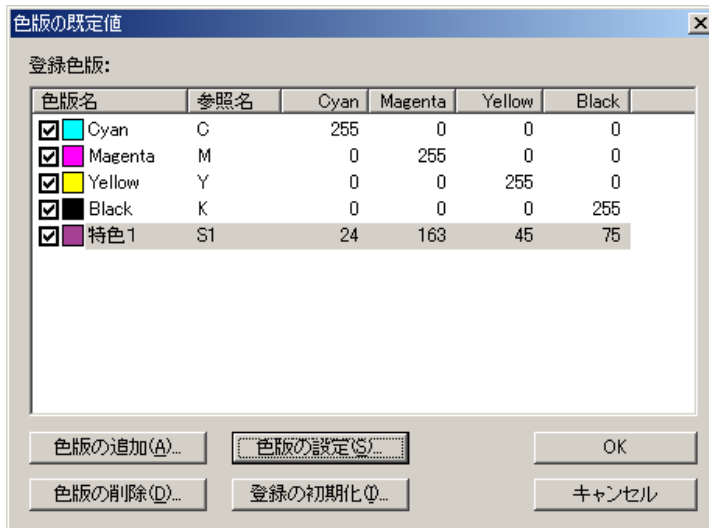
設定を確定してダイアログを終了します。

・ キャンセル ボタン

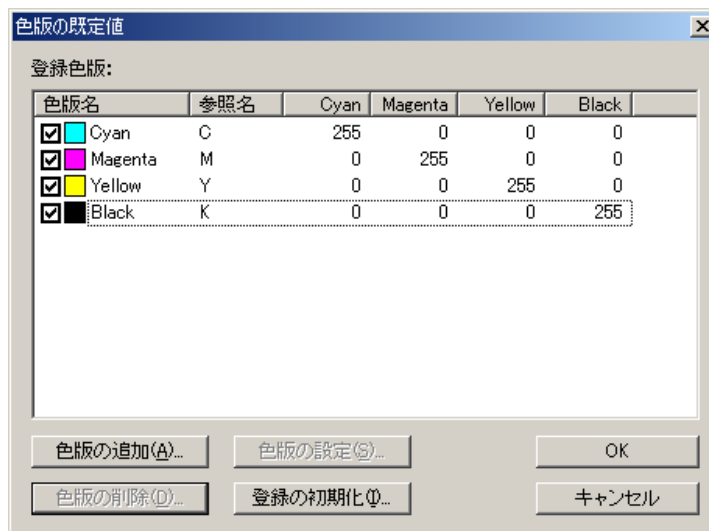
何もせずにダイアログを終了します。

色版を削除する

1) 不要な「色版」をリストから選択します

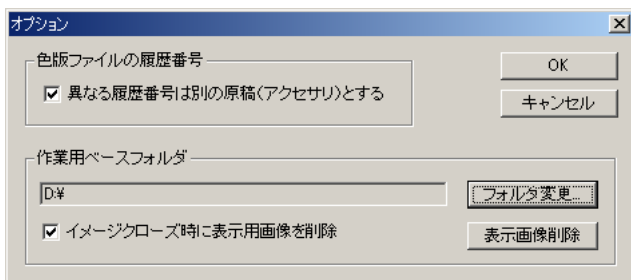


2) 「色版の削除」を押します。



1 - 3 . オプションの設定

1) ファイルメニューの “ オプションの設定 ” を選択します



システムの各種設定を行ないます

・ 色版ファイルの履歴番号 - 異なる履歴番号は別の原稿（アクセサリ）とする

通常、原稿（アクセサリ）の登録（入替）時、複数の同一色版ファイルで履歴番号の大きい色版ファイルを優先する様になっていますが、これらの色版ファイルを別の原稿として扱いたい場合、この項目をチェックします。

・ ImageViewer 作業フォルダ

ImageViewer 作業フォルダを指定します。

フォルダを変更する場合は、“フォルダ変更...” ボタンをクリックして“フォルダの参照”ダイアログで出力フォルダを指定します。

・ イメージクローズ時に表示用画像を削除

ImageViewer 表示用画像の削除を指定します。

削除しなければ、ハードディスク容量を消費しますが、次回同じファイルを開いた時、表示までの時間が短縮できます。

1 - 4 . QuickViewer の終了

1) ファイルメニューの “ アプリケーションの終了 ” を選択します

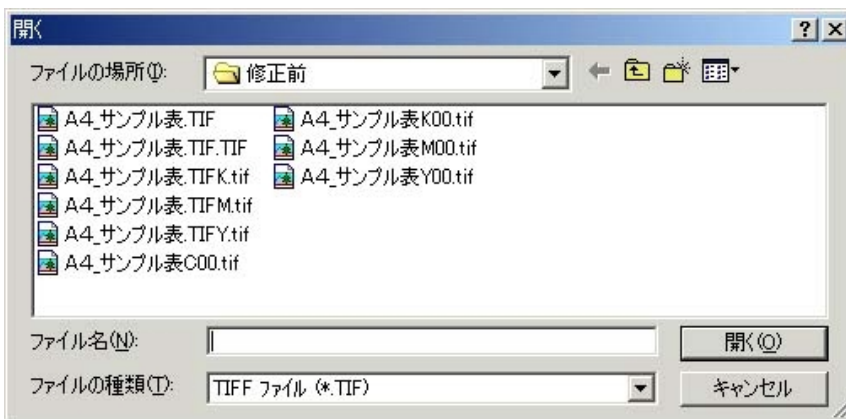
ImageViewerPC が終了します

プログラムの終了は、タイトルバーの左端にあるプログラムアイコンをダブルクリックするか、タイトルバーの右端にある「× : 閉じる」アイコンをクリックすることでも行えます。

2 . ファイル操作

2 - 1 . ファイルを開く

1) ファイルメニューの “ 開く ” で新しいファイルを開きます

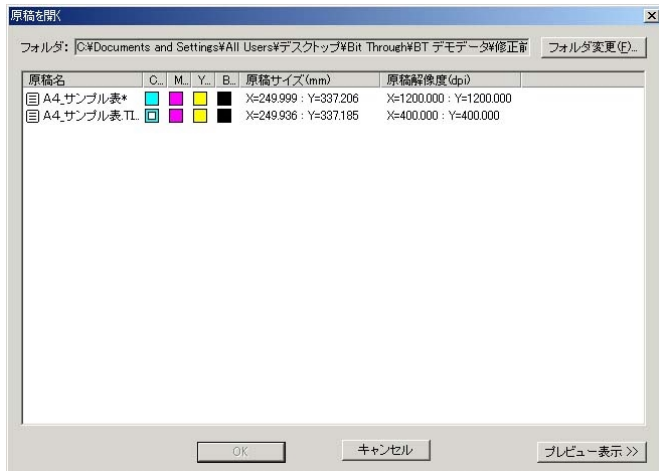


開くファイルはTIFF ファイル (.tif) です

2 - 2 . 複数版ファイルを開く

1) 複数版をひとつの原稿として開きたい場合は、ファイルメニューの “ 複数版を開く ” でファイルを選択します。

2) “ 開く ” もしくは “ OK ” をクリックするとディスプレイ画像を作成して表示します



使用版として設定されていてファイルが存在しない場合は色玉の中が白く表示されます。」また色玉をクリックしてxを設定するとファイルが存在しても合成されません

2 - 3 . ファイルを閉じる

1) ファイルメニューの “ 閉じる ” で表示中のファイルを閉じます

3 . ズーム操作

3 - 1 . ズームイン

ウィンドウの中心から表示を拡大します

Shift+クリックでクリックされたポイントを中心に拡大します

Shift+ダブルクリックでクリックされたポイントを中心に最大倍率表示にします

3 - 2 . ズームアウト

ウィンドウの中心へ表示を縮小します

Ctrl+クリックでクリックされたポイントを中心に縮小します

Ctrl+ダブルクリックで全体表示をします

3 - 3 . ピクセル等倍

ウィンドウの中心から等倍表示します

Ctrl+ Shift +クリックでクリックされたポイントを中心に等倍表示します

4 . ツールバー操作

以下のツールのいずれかをクリックして操作します。



開く



複数版を開く



ズームイン・ズームアウト



測色



測長

4 - 1 . 開く

ファイルメニューの“開く”と同じ

4 - 2 . 複数版を開く

ファイルメニューの“複数版を開く”と同じ

編集メニューの“切り取り”と同じ

4 - 3 . ズームイン・ズームアウト

ズームメニューの“ズームイン”、“ズームアウト”と同じ

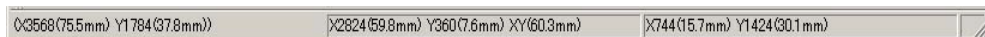
4 - 4 . 測色

画像上の任意の位置をクリックするとその位置の版毎の濃度が基本画面の下部に%で表示されます。



4 - 5 . 測長

画像上の任意の位置をクリックしカーソルを移動させると、クリック位置カーソル位置の距離が基本画面の最下部に表示されます。



↑
現在のカーソル
の位置

↑
クリック位置とカーソル位置の距離
(水平距離、垂直距離、直線距離)

↑
クリック位置